日本臨床外科学会　国内外科研修報告

兵庫医科大学炎症性腸疾患外科での研修を終えて

岐阜大学消化器外科
浅井　竜一

この度，日本臨床外科学会国内外科研修制度にて，2023年８月20日～26日の一週間，兵庫医科大学炎症性腸疾患外科にて研修をさせていただきました．

まず始めに，このような素晴らしい機会をいただきました日本臨床外科学会万代恭嗣会長，高山忠利国内外科研修委員長，私を推薦いただきました当科教授である松橋延壽岐阜支部長に厚く御礼申し上げます．そして，研修をご承諾いただき温かいご指導を賜りました，池内浩基教授を始めとした兵庫医科大学炎症性腸疾患外科のスタッフの皆様に心より感謝申し上げます．

炎症性腸疾患はわが国では増加の一途を辿る一方，これまで岐阜県内の炎症性腸疾患の方の中には受診すべき病院がわからず，県外の病院へ通院されておられる方も少なくありませんでした．岐阜大学医学部付属病院では2021年４月に炎症性腸疾患センターを開設し，2023年４月より私もその一員として活動し，手術を含む入院・外来診療を担当しております．当院では手術症例数が限られていることもあり，重症例や難治例，複雑例などにおいては治療方針に苦慮することも度々経験しておりました．そのような中，少しでも多くの経験と日々臨床で経験する様々な疑問の答えを得るべく，国内有数の症例数を誇り，伝統と経験を有する兵庫医科大学炎症性腸疾患外科での研修を希望させていただきました．

研修初日朝より，ご挨拶も早々に早速手術に参加させていただき，一週間で計８件の手術を見学させていただきました．手術においては，清潔となって術野に入らせていただき，助手として手術に参加させていただきました．Colitic cancer合併潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡下大腸全摘術において，肛門操作の際には，池内教授の助手として回腸嚢肛門吻合を間近で拝見させていただき，熟練した手術手技と吻合の美しさに感銘を受けました．また，同世代の先生方が腹腔鏡下大腸全摘術を，若い先生を指導しながら円滑に手術を進められており，port配置やdeviceを始めとしたsettingから術野展開，手術操作に至るまで大変勉強になり，刺激を受けました．その他，腸管Bechet病による回腸狭窄に対する単孔式腹腔鏡下回盲部切除術や，Crohn病に対するシートン法による痔瘻根治術などの手術を見学させていただきました．

池内教授は，外勤でご不在の曜日を除き月曜日から木曜日まで毎朝スタッフとともに病棟回診をされ，患者の状態を全員で共有し，診療に当たっておられました．池内教授とのお話の中で，患者にも笑顔が見られ安心された様子をされており，また30年以上前から通院されていた方もおられました．癌診療では５年でフォローが終了することが多いですが，炎症性腸疾患の治療は10年単位であることを実感し，また，患者と寄り添い長く診療されてきた歴史を垣間見るとともに，炎症性腸疾患診療の患者との関わりの長さとやりがいを実感する場面でした．

炎症性腸疾患センターの外来は，外科・内科・ストーマ外来が隣合って診察しているためすぐに相談でき，患者も移動することなく外科・内科の受診をすることができます．また，炎症性腸疾患内科との合同カンファレンスにも参加させていただき，患者第一のスムーズな外科と内科との連携を肌で感じることができました．

研修中は池内教授を始め，すべての先生が気にかけてくださり大変親切にしていただきました．手術中は丁寧に説明いただき，質問に対しては親切に対応くださり，大変ありがたく感じました．一週間と

いう短い研修期間ではございましたが、これまで臨床で遭遇した多くの疑問に対する回答が得られ，非常に濃密で有意義な研修をさせていただきました. 今回の研修を通して学び経験したことを, 今後の臨床, 岐阜県の炎症性腸疾患の方のために活かしていきたいと考えております.

最後に，多忙な日々の中，一週間不在となった間の業務を負担し支えていただきました当医局の先生方に，この場をお借りして感謝申し上げます.

このような貴重な機会をいただき，誠にありがとうございました．今後もこのような素晴らしい制度が継続していくことを熱望しつつ，私の報告とさせていただきます.